

# 縄文早期前葉日計式土器の年代と広域編年

## —宮城県白石市松田遺跡のAMS年代測定から—

相原 淳一 (東北歴史博物館)

### はじめに

宮城県白石市福岡深谷に松田遺跡は所在する。阿武隈川の支流白石川の西側低位段丘上、標高約50mに立地する。遺跡は東北自動車道建設に先立つ1971年の第1次と仙南仙塩広域水道建設に先立つ1981年の第2次の2回、発掘調査が行われている(第1図)。第1次調査は概報が1972年、正式報告書には概報が再録された(宮城県教育委員会1972・1982b)。第2次調査報告書は1982年に刊行された(宮城県教育委員会1982a)。発掘調査では、日計式土器を伴う竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構3基が確認された。2021年3月には、東北歴史博物館の相原淳一が出土土器の再整理を行い、中央大学教授小林謙一・東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室が土器に付着する炭化物のAMS年代測定を行った(相原ほか2021)。

本稿は、これらの調査成果に基づき、日計式土器の年代と広域編年について、考察する。

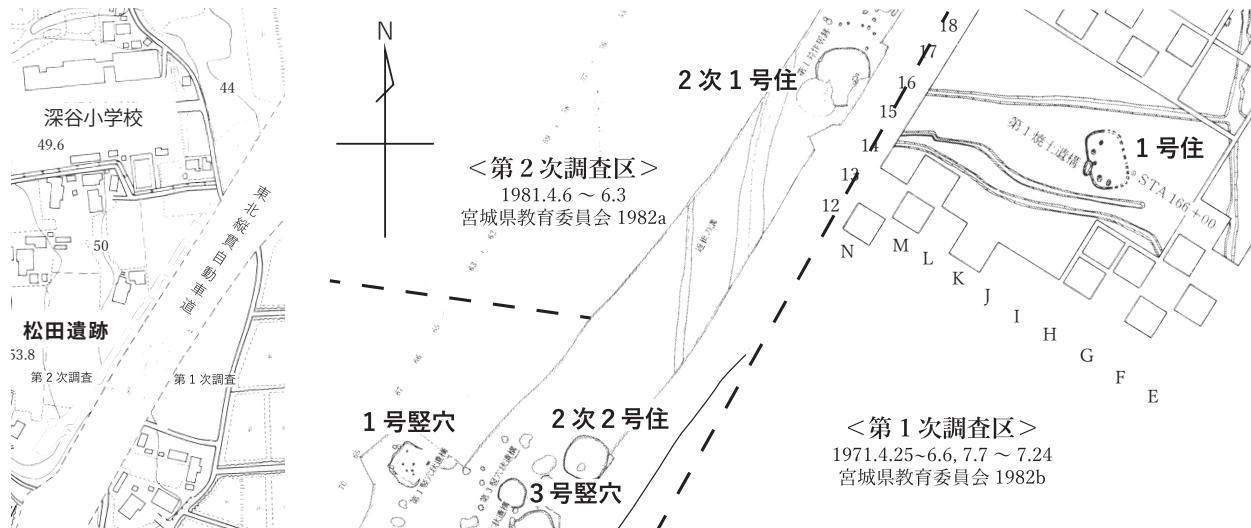
### 1. 第1次調査

基本層序は、表土(1層)20~30cm、2層汚れたローム層、3層砂質ローム層である。

#### 第1次1号住居跡(第2図②)

1号住居跡はI-17区を中心に、汚れたローム層上面で確認された。住居内堆積層は、暗黒茶褐色~暗褐色微砂質土層(2a~2b層)、暗黄褐色~暗褐色砂質土層(3a~3c層)、汚れたローム層(4・5層)である。

遺物は住居内の層位別に示された。今回、報告書に掲載されなかった資料も含めて調査した。遺物



第1図 宮城県白石市松田遺跡の位置と遺構配置図

の取り上げは、①I -17 表土、②I -17 2層、③I -17 3層、④住居内3層、⑤住居内3層ナンバーリング遺物、⑥床面の順で行われている。ナンバーリングは、No.112まで確認される。報告書には「竪穴内の堆積土から土器片39点、石鏃1点、搔器4点、剥片および碎片（チップ）88点、合計133点の遺物が出土」したことが記されており、石器類にもナンバーリングが施され、取り上げられたものと考えられる。

1層出土土器は確認されず、I -17 表土に一括されたものとみられる。住居床面からは、石皿の半欠品1点が出土した。

①**2層出土土器**（1～2） 土器は2点、うち1点は纖維が混和されておらず、縄文後期の土器である。

②**3層出土土器**（3～21） 土器39点のうち19点を図示。接合資料や同一個体破片を含む。土器の胎土にはすべて纖維が混和されている。器形は平縁（口唇部に指頭状圧痕が連続するものがある）、尖底である。器厚は概して薄手である。縄文と押型文、撚糸文が施され、縄文と押型文には横位平行沈線文が加えられるものがある。横位平行沈線文には一本描き、二本一組、多条沈線となるものがある。底部付近は無文である。

縄文は横帯施文による斜行縄文で、6は帯を入れ替えて羽状構成になるものとみられる。縄文の種類は多く、通常の単節縄文のほかにLRO段3条、LRL1段多条、RL2本附加条がある。縄文末端結縛部（6b）や縄文末端部を強調して回転施文したもの（11）がある。

押型文は重層山形文と1点のみ平行線状押型文（19）が確認された。種類は少ない。

撚糸文は2点（12<sup>\*1</sup>・15）あり、左傾（12）、右傾（15）するものがあり、12はやや太い撚紐（R）、15は細い撚紐（R）を軸に絡げている。

\* 1 相原ほか2021では、相原が12を縄文（LR）と誤認した。撚糸文（R）に訂正する。

**【年代測定】** 年代測定用に5点の土器内面に付着する炭化物を採取したが、年代測定に充分な量を得ることができなかった。



①松田遺跡近景（北から）



②第1次1号住居跡（南から）

第2図 松田遺跡近景（1981年）と第1次1号住居跡（1971年）



第3図 松田遺跡第1次1号住居跡出土土器

## 2. 第2次調査

基本層序は、1層（I a層）表土、2層（I b層）黒褐色シルト層、3層（II層）黒褐色シルト層（黒ボク層）、4層（III層）褐色シルト層：上面が遺構確認面で、多くの遺物が出土した。5層（IV層）ローム層である。

遺物にはほとんど注記が施され、文様別に登録番号が付された。報告書では遺構別に床面、堆積土の順に、堆積土出土遺物は一括して文様別に示された。

ここでは、土器の注記と登録番号に基づき、層位別に掲載する。必要に応じて、再実測や採拓、写真撮影を行った。遺物台帳は所在不明であるが、登録番号を付した際の遺物カードが残されていた。一部に確認することができなかった資料がある。

### A. 第2次1号住居跡（第4図）

第1次1号住居跡の西北西約20mで検出された。風倒木による攪乱が大きく入っている。堆積層は3層あり、報告書ではほとんどが第1層から出土したとするが、遺物注記は2層から始まっている。ここでは、注記に従い、風倒木による攪乱等が及ぶ2層までは扱わず、3層以下のみを再掲する。

#### ①3層出土土器（第5図1～3）

住居壁近くから中央部にかけて堆積する褐色土層ある。遺物は少ない。

1は横位平行線状文が施されている。2は重層山形文上に横位平行線状文が施されている。3は底部近くの無文部片である。胎土にはすべて纖維が混和されている。

#### ②最下層出土土器（第5図4～15）

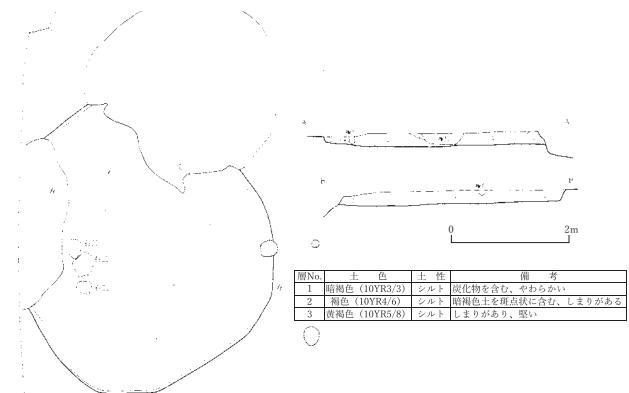
住居壁沿いの黄褐色土層である。遺物は少ないが接合する破片や床面に同一個体がある。出土土器の胎土にはすべて纖維が混和されている。

4は粗大なLR縄文が施され、やや太い平行沈線文が描かれている。床面土器（第5図18）に類似する。5も粗大なRL縄文が施され、土器の胎土は4に類似している。

6～11は押型文が施される土器である。6は口縁部で薄く剥落している。口縁端部外角には細かな指頭状圧痕が連続して施されている。押型文はごく浅い縦位の条線で、角棒回転文、あるいはなんらかの自然物回転文である。横位平行沈線文が施されている。7は2段の重層山形文の上位に横位

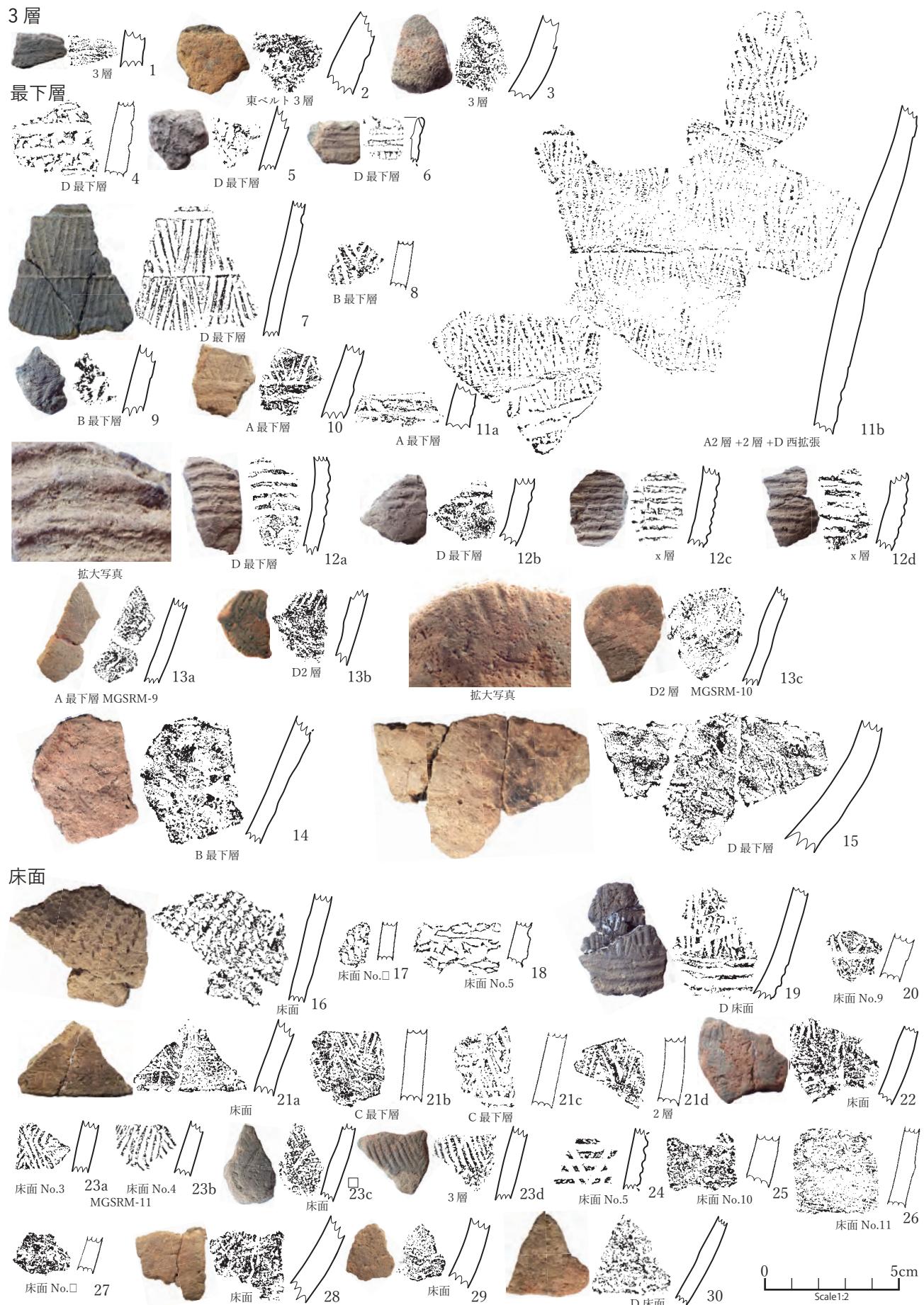


①第2次1号住居跡



②同平面図・断面図

第4図 松田遺跡第2次1号住居跡



第5図 松田遺跡第2次1号住居跡3層以下出土土器

沈線文が施されている。8・9は重層山形文が施されている。10は胴下部に重複菱形文（重層文？）を施した後に、平行線状文を施している。11は胴部に重複菱形文を施し、胴下部に幅広の沈線をめぐらしている。

12は横走する太く撚り合わせた撚糸文（直前段多条LRI）が胴下部にめぐる。撚りが判然としない部分があり、横位平行線状文を施文したのちに、撚糸文を施している可能性もある。

13は胴下部の小片で、内面に炭化物が付着し、同一個体として識別できる。極細の多条沈線が右傾（13a・13c）、左傾（13b）しており、重層山形状、あるいは襷掛け状の構成をとるものと考えられる。底丸の沈線内にはごく細かい条線が確認される。以下の無文部はケズリが施されている。

14・15は胴下部から底部近くである。14の最上部に横位沈線文が残る。

### ③床面（第5図16～30）

ナンバリングして平面図に記録して取り上げたものと、単に床面として取り上げたものがある。土器の胎土にはすべて纖維が混和されている。

16～18は縄文施文土器である。16は非結束羽状縄文（LR、RL）である。17はLR縄文、18は粗大なLR縄文のうちに横位平行沈線文を施している。

19～23は押型文土器である。19は胴下部に重層山形文を施し、以下には横位平行沈線文を施している。沈線文は太さにばらつきがある。20は重複菱形文、21・22は重層山形文が施されている。23は皮膜状に炭化物が付着しており、同一個体と識別できる。重複菱形文が施文されている。

24はやや太描きの横位平行沈線文を施したのちに、重層山形状に2本の沈線文を配している。25～30は胴下部から底部にかけての無文部破片である。

### 【年代測定】

A最下層出土の13aと同一個体のD2層中出土の13cの胴下部破片の内面付着炭化物（試料名：MGSRM-10）において、年代測定が行われた。結果は、8,900 ± 30BP (TKA-22886)、IntCal20による暦年較正年代（1σ）は10,158～9,916calBP、同（2σ）10,177calBP (95.4%) 9,905calBPである。

### B. 第2次2号住居跡（第6図）

第2次1号住居跡の南南西約33mで検出された。住居跡のほぼ中央には、風倒木による攪乱が大きく入り、床面の一部に達している。堆積層は2層あり、第1層は住居壁近くから中央部にかけて、第2層は住居壁沿いから中央部にかけて、いずれも褐色土で、凸レンズ状に堆積している。

遺物の取り上げ層位では3層土器が2点ある。非纖維土器の4・5は2号住1層土器として登録されたが、報告では遺構外出



第6図 松田遺跡第2次2号住居跡

土遺物として掲載されている。住居中央に風倒木による攪乱が大きく入り込んでいるための判断とみられる。同じく非纖維土器の 16 は 2 号住 2 層土器として登録され、報告書にはそのまま掲載された。

#### 細別層位不明（第 7 図 1～3）

縄文施文土器（1・2）、重層山形文土器（3）ある。

##### ① 1 層（第 7 図 4～15）

全体的にやや摩滅した破片が多い。軟質の 5・9・11・15 は破片の形状自体がやや丸くなっている。4・5 以外はすべて胎土に纖維が混和されている。

4・5 は集合沈線文が施されている。4 は左傾した集合沈線文のちに、右傾した集合沈線文を施している。5 は疎らな右傾する細沈線文のちに密なやや右傾する集合沈線文を施している。

6・7 は縄文施文土器である。ともに胎土には纖維が混和されている。6 は LRO 段多条縄文が横帶施文されたのちに、横位平行沈線文が施されている。7 は薄手の縄文（RL）施文土器である。

8～15 は押型文が施されている。8 は同一個体が第 2 次 1 号竪穴 3 層に 1 点ある。重層山形文を施したのちに、平行線状文を施している。9～11 は平行線状文が施され、9・10 は以下に重層山形文が施されている。9 の口縁部は平坦に整えられ、上部に彫去状に浅い刻目文が施されている。12 は重層山形文施文後に、横位平行沈線文を施している。13～15 は重層山形文の一部である。

##### ② 2 層（第 7 図 16～31）

16 は非纖維土器である。胴下部にミガキ調整を加えたのちに太描きの斜位沈線文をケズリ状に連続して施している。17 は纖維がわずかに混和されている。胴下部に棒状施文具による太描き沈線文がほぼ縦位に施されている。18 もわずかに纖維が混和され、海綿状骨針を多く含有する。外面は丁寧に磨かれている。

19～24 が縄文施文土器である。いずれも胎土に纖維が混和されている。19・22・23 が非結束羽状縄文で、19 は条の走行を菱形状、23 は山形状に整えている。19・20・23 が 0 段多条单節縄文、24 が 1 段多条複節縄文である。23・24 には横位平行沈線文が施されている。

25～30 は押型文土器である。すべて纖維が混和されている。重層山形文か重複菱形文に 27・28 は横位平行沈線文、29・30 は平行線状文が施されている。30 は胴下部である。

31 は胴下部の無文部破片である。胎土には纖維が混和されている。外面はナデののちにミガキが施されている。内面には炭化物が付着しており、年代測定（MGSRM-6）を行った。床面の胴下部の無文土器（34）は胎土から同一個体の可能性があるが、特定には至らなかった。

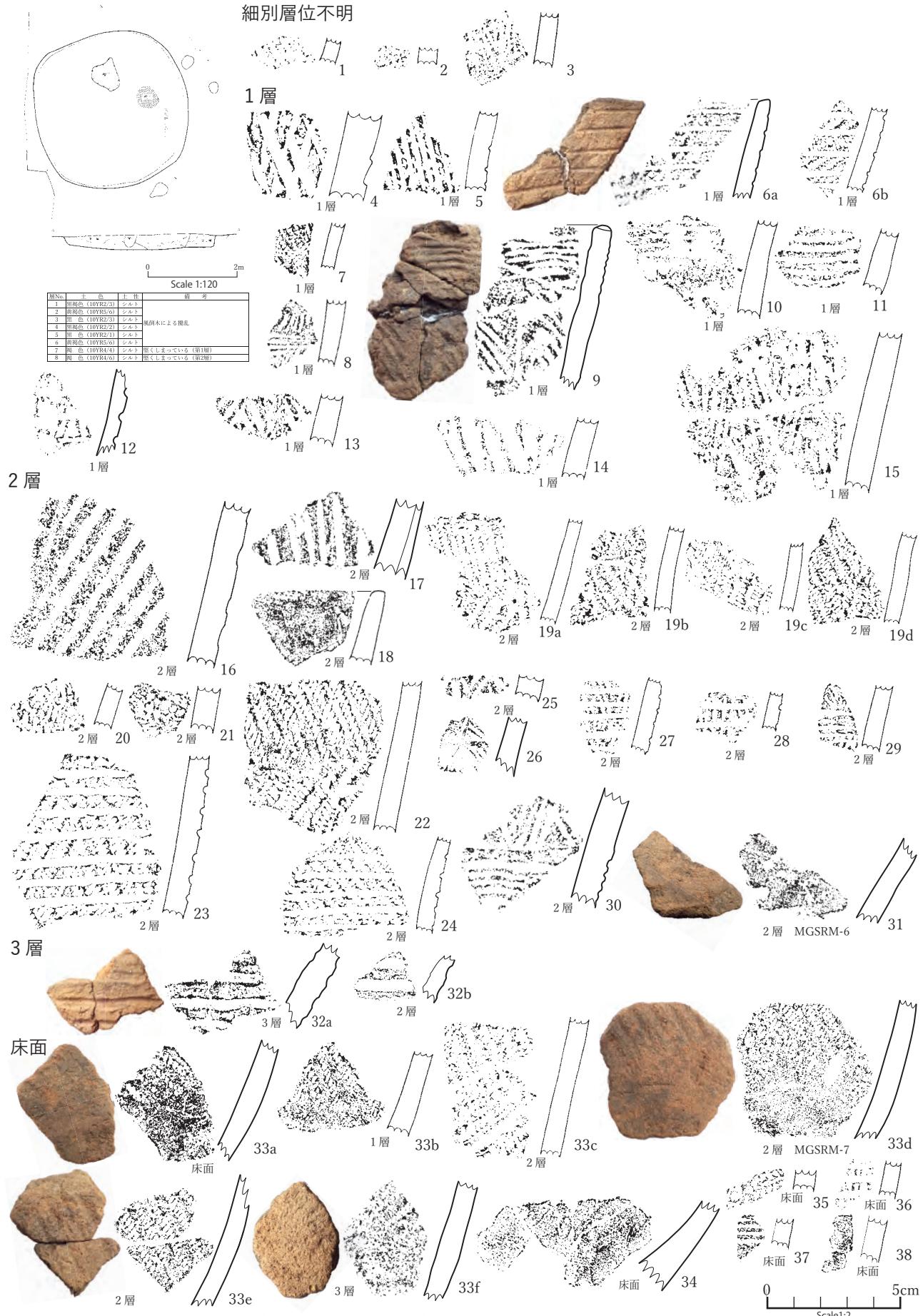
##### ③ 3 層（第 7 図 32）

32 は底部近くの破片で赤変している。端部平坦な割箸状の施文具による太描き横位平行沈線文が施されている。胎土には纖維が混和されている。

##### ④ 床面（第 7 図 33～38）

32 は同一個体で、破片が 1 層～床面まで分散する。砂質の特徴的な胎土をしており、纖維が混和されている。0 段多条の非結束羽状縄文である。34 は胴下部の無文部である。外面はミガキである。35～38 がナンバリングして取り上げられた床面の土器である。35 は LR 縄文施文土器、36 は重層

8 縄文早期前葉日計式土器の年代と広域編年



第7図 松田遺跡第2次2号住居跡と出土土器

山形文に横位平行沈線文を施したもの、37は平行線状文を施したものである。38は胴下部の無文部である。すべて胎土に纖維が混和されている。

### 【年代測定】

2層出土の31の胴下部破片の内面付着炭化物（試料名：MGSRM-6）において、年代測定が行われた。結果は、 $10,045 \pm 64$ BP (TKA-22823)、IntCal20による暦年較正年代（ $1\sigma$ ）は $11,725 \sim 11,400$ calBP、 $10,177$ calBP (95.4%) 9,905calBP、同（ $2\sigma$ ）は $11,817$ calBP (95.1%) 11,311calBP (0.3%) である。

### 3. 松田遺跡の日計式土器

今回、特に住居跡の暗黄褐色を基調とする下部堆積層および床面出土土器を中心に、改めて再検討を行った。文様別に整理すると、第1表のとおりである。ここでは、参考までに、松田遺跡から5.6km北北東に位置する蔵王町鍛治沢遺跡（第8図：宮城県教育委員会2010・相原ほか2021）と、日計式土器を考える上で研究史上欠くことのできない岩手県蛇王洞洞穴遺跡第VII層出土土器（第9図：芹沢・林1965）との比較検討を行う。鍛治沢遺跡では主として遺物包含層第IVd層から日計式土器が出土している。若干の野島式～後期後葉ころの土器の混入がある。三戸式土器は出土していない。蛇王洞第VII層は粗粒の砂層で、第VI層からは蛇王洞II式（三戸式後半に併行：相原・佐藤2021）が出土している。第VII層出土土器はいずれも小片で、第VI層と比べて遺存状況は悪い。

松田遺跡住居跡の日計式土器は、第1次1号住では縄文（多）・押型文（少）、第2次1・2号住では縄文（少）・押型文（多）の組成上の違いがあり、僅かに撚糸文を伴っている（第1次1号住・第2次1号住）。鍛治沢遺跡では、縄文施文土器そのものが僅少で、押型文土器が多い。

松田遺跡		日計式以外	縄文		撚糸文	押型文（重層山形・重複菱形文）				沈線文	無文（部）	計
			縄文	同+沈線文		押型文	同+沈線文	同+平行線状文	平行線状文			
第1次1号住	①2層 ②3層	1（後期）	1									2
			4	7	2	1	3	1			1	19

松田遺跡		日計式以外	縄文		撚糸文	押型文（重層山形・重複菱形文）				沈線文	無文（部）	計
			縄文	同+沈線文		押型文	同+沈線文	同+平行線状文	平行線状文			
第2次1号住	①3層							1	1		1	3
	②最下層		1	1	1	2	3	1		2	1	12
	③床面		2	1		4		1		1	6	15

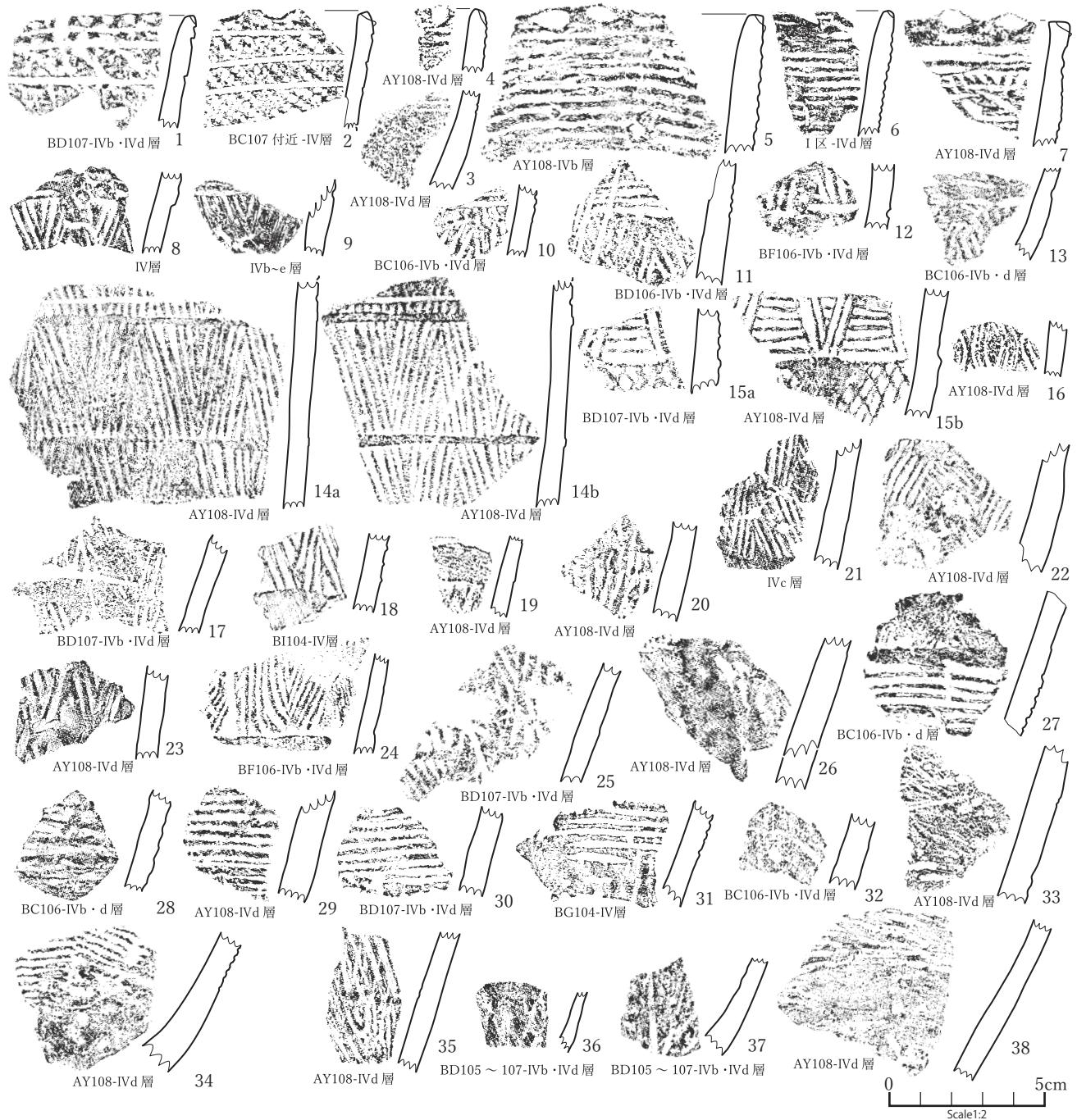
松田遺跡		日計式以外	縄文		撚糸文	押型文（重層山形・重複菱形文）				沈線文	無文（部）	計
			縄文	同+沈線文		押型文	同+沈線文	同+平行線状文	平行線状文			
第2次2号住	①1層	2(三戸式)	1	1		3	1	4				12
	②2層	3(三戸式～無文)	4	2		2	2		2		1	16
	③3層									1		1
	④床面		2				1		1		2	6

参考

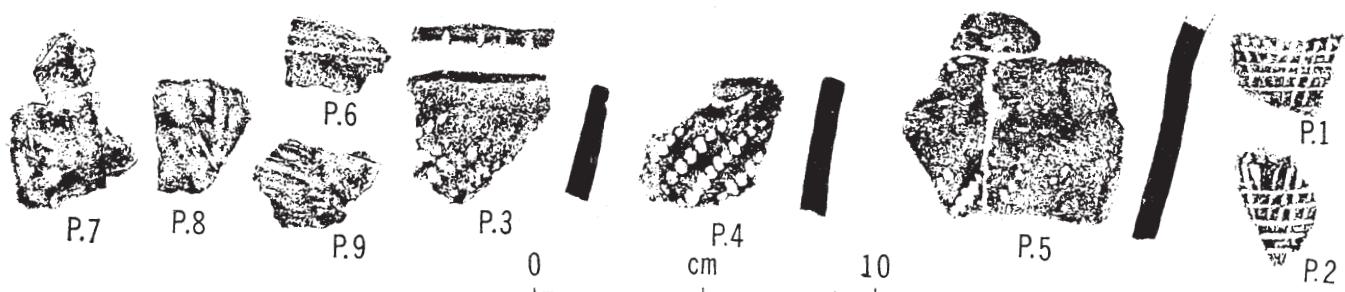
鍛治沢遺跡		日計式以外	縄文		撚糸文	押型文（重層山形・重複菱形文）				沈線文	無文（部）	計
			縄文	同+沈線文		押型文	同+沈線文	同+平行線状文	平行線状文			
IVb・IVd層、IVd層	>4(野島式、後期後葉ころ)			3		12	6	4	8	1		>38

蛇王洞洞穴 (岩手県)		日計式以外	縄文		撚糸文	押型文（重層山形・重複菱形文）				沈線文	無文（部）	計
			縄文	同+沈線文		押型文	同+沈線文	同+平行線状文	平行線状文			
第VII層		縄文+刻目文(口唇部)2 縄文+横位押圧縄文1 薄手無文(含金雲母)3				2				1		

第1表 松田遺跡住居跡出土の日計式土器



第8図 鍛冶沢遺跡第IVb・IVd層出土土器



第9図 蛇王洞洞窟遺跡第VII層出土土器

**①縄文** 松田遺跡第1次1号住では、斜行縄文が単純に横帯施文を重ね、帯を入れ替えて横位羽状の構成となる可能性のものがある。縄文の種類では、単節縄文のほかに、0段多条、1段多条、附加条がある。縄文末端結縛部や縄文末端部を強調して回転施文したものがある。第2次1号住では、横帯非結束羽状縄文、斜行縄文があり、粗大な縄文がある。同2号住では、横帯の中に条の走行が山形状、菱形状に整えられた横帯非結束羽状縄文がある。0段多条、1段多条縄文が多い。

松田・鍛治沢遺跡とともに、口唇部には指頭状圧痕が施されるものがあり、蛇王洞遺跡（第9図）にみられる平坦口縁上面に連続する刻目文や押圧縄文（縄の側面圧痕文）はみられない。これらは新潟県室谷洞窟遺跡（中村・小片 1964）や青森県櫛弓遺跡（青森県教育委員会 1999）に類例があり、縄文草創期に属するものである。

**②撚糸文** 松田遺跡第1次1号住で、やや太い撚紐（R）が左傾・細い撚紐（R）が右傾するものがある。第2次1号住では横走する太く撚り合わせた撚糸文（直前段多条 LRI）が胴下部にめぐる。撚りが判然としない部分があり、横位平行線状文を施文したのちに、撚糸文を施している可能性もある。鍛治沢遺跡・蛇王洞遺跡では出土していない。宮城県赤坂遺跡、岩手県風林遺跡・大新町遺跡に類例がある。

**③押型文** 松田遺跡第1次1号住では、重層山形ないしは重複菱形文のみの構成である。蛇王洞遺跡の押型文土器と同様の構成である。松田遺跡第2次調査では、重層山形文・重複菱形文の内部を斜線で充填するものがわずかにみられる。これらは、斜位充填文様の施される関東地方の「複合鋸歯文」「異形押型文」と共通する文様のつくりとなっている。

鍛治沢遺跡では、「V字状押型文」（武田 1969）と「菱形格子目押型文」（相原 1978）の組合せなど、松田遺跡にはみられない異種押型文がある。類例が山形県羽黒神社西遺跡（山形県埋蔵文化財センター 2020）にあり、新潟・長野県に分布する「日計式南漸土器」の文様のつくりは類似する。

**④沈線文** 縄文・押型文施文後に、横位平行沈線文が施されるものは、松田遺跡第1次1号住・第2次1号住、同2号住、鍛治沢遺跡、蛇王洞遺跡においてもみられる。描線は単独で施されるものほかに、2本1組、櫛歯状工具による多条沈線がある。底部近くに、割箸状の工具によるやや太描きの横位平行沈線が施される土器が松田遺跡第2次2号住・鍛治沢遺跡にある。蛇王洞遺跡の無文地に横位平行沈線文が施される土器は、施文具は異なるものの、こうした土器の類型に属するものかもしれない。このほか、山形状の意匠が単独・多条沈線によって描かれるものが松田遺跡第2次1号住、斜位平行沈線文が施されるものが鍛治沢遺跡にある。

**⑤無文** 松田遺跡・鍛治沢遺跡とともに、胴下部の無文部である。唯一の例外として、松田遺跡第2次2号住2層から出土した口縁部破片がある。わずかに纖維が混和され、海綿状骨針を多く含有し、明らかに胎土が異なる土器である。外面は丁寧に磨かれている。福島県等に分布する関東地方の撚糸文土器終末期の無文土器の搬入品の可能性があろう。

蛇王洞遺跡の指頭状圧痕の著しい薄手無文土器は松田遺跡・鍛治沢遺跡では出土していない。宮城県蔵王町上原田遺跡（林 1965・相原 2016）や岩手県上台I遺跡（花巻市博物館 2005）に類例がある。

#### 4. 日計式土器の広域編年

松田遺跡の年代測定は、第2次1号住 MGSRM-10 で 10,177calBP (95.4%) 9,905calBP、同2号

時期区分(土器型式)		遺跡名・試料	<sup>14</sup> C年代(yrBP)	曆年校正(±1σ)(calBP)	測定機関番号	文献名
草創期	無文土器	青森県大平山元I遺跡III・IV層土器	13,780 ± 170 13,210 ± 160 13,030 ± 170	16,750 ~ 16,290 16,010 ~ 15,490 15,760 ~ 15,190	NUTA-6510 NUTA-6515 NUTA-6507	大平山元I遺跡調査団1999
		青森県赤平(1)遺跡第VII層上面炭化物集中	12,720 ± 160 12,680 ± 140	15,280 ~ 14,710 15,190 ~ 14,670	NUTA-6509 NUTA-6506	青森県教育委員会2008
		青森県表館遺跡(1)	13,740 ± 60 13,800 ± 70	16,550 ~ 16,150 16,650 ~ 16,230	IAAA-61926 IAAA-61927	青森県教育委員会1989
	隆縁文土器	青森県黄壁遺跡2号竪穴	12,360 ± 50		Beta-148515	南郷村教育委員会2001
		青森県端遺跡集石遺構	10,290 ± 40		Beta-138898	階上町教育委員会2000
	爪形文土器	宮城県岩手坑遺跡I号上坑	(5,940 ± 90)	(6,886 ~ 6,671)	NUTA-5345	仙台市教育委員会1986
		秋田県岩瀬跡SYQ600灰	10,910 ± 170		Gak-17802	仙田市教育委員会1986
	多縁文土器	青森県漁引遺跡	10,110 ± 50		Beta-13349	青森県教育委員会1989
		新潟県黒姫洞穴B2-24 新潟県黒姫洞穴B2-24V1a層101号土坑土器内面	9,850 ± 40 9,720 ± 40	11,335 ~ 11,175(2σ) 11,670 ~ 10,875(2σ)	Beta-194820 Beta-194819	入広瀬村教育委員会2004
早期	縄文系土器 (室谷2群新相類似) 斜行縄文(RL)	岩手県上台I遺跡RA01住土器(未報告)内面	9,900 ± 40	11,400 ~ 11,215 (95.4%)	PLD-11929	西本編2009・小林2016
		岩手県上台I遺跡RA01住土器内面	9,850 ± 50	11,530 ~ 11,170	IAAA-31108	花巻市博物館2005・酒井2009
		岩手県上台I遺跡RA02住土器下部炭化材	9,580 ± 40	11,670 ~ 10,700	IAAA-16172	花巻市博物館2005
		岩手県上台I遺跡RA03住土器内面	9,845 ± 40	11,320 ~ 11,200 (95.4%)	PLD-11931	西本編2009・小林2016
		岩手県上台I遺跡RA03住壁縄砂質小層炭化材	9,470 ± 35	10,790 ~ 10,585 (88.4%)	PLD-11930	
		岩手県上台I遺跡RA03住壁縄砂質小層炭化材	9,560 ± 40	11,670 ~ 10,720	Beta-161171	花巻市博物館2005
		福島県仙台内前遺跡2号住Q区L1層	9,750 ± 100		NUTA-604	福島市教育委員会1988
		福島県岩下向A遺跡土器内面	9,590 ± 100		NUTA-605	
		福島県下向A遺跡土器外側	9,500 ± 30	11,056 ~ 10,677	IAAA-150740	福島県文化振興財團・加速器2016
		福島県乱搭前遺跡包LIV層土器外側	9,520 ± 50	10,761 ~ 10,610	IAAA-50972	福島県教育委員会2006
前葉 (1)	条線文(縦位、やや斜位、横状) (参考)	福島県乱搭前遺跡包LIV層土器内面	9,500 ± 40	10,761 ~ 10,610	IAAA-50743	福島県文化振興財團・加速器2016
		神奈川県江ノ島遺跡包含層土器内面	9,560 ± 50	11,105 ~ 10,710	IAAA-30039	小林2007・2016
		福島県市ノ塚遺跡土器外側	9,442 ± 35	10,756 ~ 10,581	Beta-404304	小林2016
		神奈川県玉縄城清水曲輪遺跡土器内面	9,320 ± 30	10,592 ~ 10,477	YU-2295	
		福島県会津坂下町大穴新田遺跡土器内面	9,190 ± 30	10,520 ~ 10,399	IAAA-80505	福島県文化振興財團・加速器2019
		福島県西田遺跡17号住L4層炭化物	(8,490 ~ 9,430)	(9,490 ~ 9,430)	PLD-175222	福島県教育委員会2005
		山形県日向洞窟5層炭化物	9,927 ± 28	11,340 ~ 11,255	PLD-2048	
		山形県日向洞窟5c層炭化物	9,470 ± 35	10,760 ~ 10,660	PLD-31205	
		山形県日向洞窟堅六(床)炭化物	9,492 ± 37	11,060 ~ 10,680	PLD-31382	長井謙治編2019
		山形県日向洞窟堅六穴覆+②炭化物	9,511 ± 37	11,065 ~ 10,700	PLD-31198	
(仮称)室小路式	山形状 縦条体压痕+爪形状刺突文 円形刺突文+格子目文(横状) 円形刺突文+平行沈線文 厚手無文(P-99)	山形県日向洞窟堅六穴覆+③炭化物	9,419 ± 30	10,695 ~ 10,585	PLD-31440	
		岩手県室小路15遺跡VI層下部有機質堆積物	9,410 ± 50	10,690 ~ 10,560	Beta-163737	
		岩手県室小路15遺跡VI層上部泥炭	9,080 ± 60	10,240 ~ 10,200	Beta-163735	福沢村教育委員会2002
		岩手県室小路15遺跡VI層下部泥炭	9,030 ± 60	10,230 ~ 10,180	Beta-163736	碇ヶ関村教育委員会2017
		岩手県室小路15遺跡VI層下部泥炭	9,020 ± 40	10,220 ~ 10,180	Beta-163738	
		山形状(P-168)	9,000 ± 60	10,005 ~ 9,940	Beta-106492	滝沢村教育委員会1989
		横位+L形状(O-182)	8,660 ± 60	9,635 ~ 9,505	PLD-23355	青森県教育委員会2020
		横位+山形状平行沈線文(P-174)	9,250 ± 30	10,305 ~ 10,305	IAAA-40495	青森県教育委員会2004
		厚手無文土器(非織維)	9,050 ± 50	10,305 ~ 9,930	PLD-32679	
		青森県黒姫洞跡第III層土器内面	9,260 ± 30	10,510 ~ 10,305	PLD-30999	
日計式	重層山形文 厚手無文土器(尖底) 厚手無文土器 重層山形文+平行沈線文 羽状縄文(RL)+平行沈線文 重層山形文+平行沈線文 羽状縄文(RL)+平行沈線文 厚手無文土器(尖底)	青森県二枚縫(1)遺跡I層土器	9,205 ± 30	10,409 ~ 10,284	PLD-31000	
		青森県二枚縫(1)遺跡S1113層土器	9,195 ± 20	10,386 ~ 10,273	PLD-34996	
		青森県二枚縫(1)遺跡S1113層土器	9,150 ± 25	10,366 ~ 10,241	PLD-32680	青森県教育委員会2017
		青森県二枚縫(1)遺跡II層土器	9,140 ± 35	10,370 ~ 10,235	PLD-30997	
		青森県二枚縫(1)遺跡Ib層土器	9,115 ± 25	10,225 ~ 10,235	PLD-34998	
		青森県二枚縫(1)遺跡S1112層土器	9,035 ± 20	10,228 ~ 10,202		
		青森県二枚縫(1)遺跡S1112層土器	9,025 ± 20	10,225 ~ 10,200		
		青森県二枚縫(1)遺跡I層土器	9,010 ± 30	10,224 ~ 10,189		

第2表 東北地方を中心とした縄文時代草創期～早期中葉土器の年代測定(1)

繩文(RL) 厚手無文	岩手県尺沢遺跡遺物集中 I 土器 岩手県尺沢遺跡土器	8, 800±30	9, 896~9, 741	IAAA-191145	洋野町教育委員会2020
		8, 770±30	9, 887~9, 697	IAAA-191144	
重層山形文2点・無文1点を含む層	青森県林ノ脇遺跡ブロック4第IV層中の炭化材	8, 790±30	9, 988~9, 736	IAAA-191425	
	青森県林ノ脇遺跡ブロック4第V層中の炭化材	8, 710±30	9, 691~9, 564	IAAA-200416	青森県教育委員会2021
(石皿・磨石・剥片石器)	青森県林ノ脇遺跡SK3床面中の炭化材	8, 760±30	9, 886~9, 680	IAAA-200417	
	青森県林ノ脇遺跡SK3床面の炭化材	8, 760±30	9, 886~9, 682	IAAA-200418	
前葉 (2)	岩手県大新町TC1層炭化材	8, 740±30	9, 774~9, 611	IAAA-200419	
	岩手県大新町B1層炭化材	8, 860±50	10, 170~9, 760	IAAA-71884	西本編2009・小林2016
日計式	青森県柄貝遺跡物集中 I 炭化材(42枚*6枚)	8, 820±50	9, 970~9, 685	PLD-36758	西本編2009・小林2016
	青森県柄貝遺跡12号堅穴建物床面直上炭化材	8, 765±25	9, 887~9, 690	PLD-35362	青森県教育委員会2019
無文 押型文	青森県柄貝遺跡12号堅穴建物床面直上炭化材	8, 725±30	9, 736~9, 601	PLD-35361	
	青森県柄貝遺跡2号焼上遺構中木炭	8, 680±25	9, 656~9, 557		
青森県大久保平遺跡2号焼上遺構中木炭	8, 580±50	9, 560~9, 495	IAAA-61951		
	8, 460±40	9, 525~9, 460	IAAA-61952		
青森県大久保平遺跡4号焼上遺構中木炭	8, 600±50	9, 600~9, 520	IAAA-61953	青森県教育委員会2010	
	8, 530±50	9, 540~9, 495	IAAA-61954		
青森県大久保平遺跡4号焼上遺構中木炭	8, 680±40	9, 670~9, 550	IAAA-61956		
	8, 330±50	9, 430~9, 300	IAAA-61957		
青森県大久保平遺跡4号焼上遺構中木炭	(8, 060±50)	(9, 080~8, 780)	IAAA-72445	宮城県教育委員会2010	
	(7, 370±25)	(8, 287~8, 166)	pal-11025	山形県埋蔵文化財センター—2020	
重層山形文+平行沈線文	青森県羽黒神社西遺跡AY108区IVd層土器				
	山形県谷登跡B8階下土器炭化物	8, 810±60	10, 120~9, 690	Beta-93257	豊谷調査団2002
重層山形文	(参考)				
					盛岡市教委1982ほか、神原2009
天矢場式	大新町式 板状大館式				神原2009・岩手県埋蔵文化財センター—2017
太平式	青森県中野平遺跡112号住(クルミ)	8, 800±180		NUTA-1037	青森県教育委員会1991
	岩手県長瀬B遺跡Da06住	8, 590±115		N-3166	
三戸式	8, 480±115			N-3167	
白浜式	青森県田向遺跡土器外面	8, 530±50	9, 555~9, 455(65.4%)	Beta-158189	小林2007
	青森県米山(2)遺跡VII層土器	8, 520±25	9, 533~9, 500	PLD-35346	
寺の沢式	青森県米山(2)遺跡VII層土器	8, 380±30	9, 468~9, 334	PLD-35345	青森県教育委員会2019
	青森県銀井沼(3)遺跡VII層土器	8, 520±60	9, 595~9, 425	MTC-08494	三沢市教育委員会2008
寺の沢式	岩手県小井田III遺跡2号住	(9, 180±250)		IM-150	
		8, 390±220		IM-152	岩手県埋蔵文化財センター—1985
田戸下層式		(7, 290±480)		IM-151	
中葉	福島県馬場平B遺跡土器内面	8, 760±30	9, 887~9, 682	IAAA-150744	
	福島県前原A遺跡土器外面	8, 740±30	9, 680~9, 563	IAAA-150746	福島県埋蔵文化財団・加速器2016
田戸上層式	福島県前原A遺跡土器外面	8, 690±30	9, 657~9, 554	IAAA-150747	
	福島県前原A遺跡土器外面	8, 680±30	9, 629~9, 548	IAAA-150745	
子母口式	福島県大松沢遺跡1号灰跡	8, 460±40	9, 468~9, 521	IAAA-158052	いわき市教育委員会2009
				IM-152	
天寺上層式	岩手県九重沢遺跡第1群類土器	(5, 330±40)	(6, 190~6, 010)	Beta-177258	岩手県埋蔵文化財センター—2004
	岩手県九重沢遺跡第1群類土器	8, 240±50	9, 288~9, 129		
天寺下層式	福島県田子平A遺跡31号土坑土器外	8, 280±40	9, 402~9, 143	加速器(AMS法)	吉野(ほの)2015
	福島県田子平A遺跡31号土坑土器内面	7, 970±30	8, 771~8, 736	IAAA-150743	
常世I式	福島県西田H遺跡土器内面	8, 030±30	8, 981~8, 771	IAAA-150748	福島県埋蔵文化財団・加速器2016
	福島県西田H遺跡土器外	7, 970±30	8, 951~8, 645	IAAA-150749	
天寺上層式	福島県西田H遺跡土器外	8, 010±30	8, 989~8, 780	IAAA-150750	
	岩手県九重沢遺跡第1群類土器	8, 100±40	9, 030~9, 010	Beta-177259	岩手県埋蔵文化財センター—2004

第3表 東北地方を中心とした縄文時代草創期～早期中葉土器の年代測定（2）

住MGSRM-6で11,817calBP(95.1%)11311calBPが得られた。MGSRM-10の年代は青森県二枚橋(1)遺跡(青森県教育委員会2017)、岩手県尺沢遺跡(洋野町教育委員会2020)で得られた10,510~9,697calBP(±1σ)に収まり、齟齬がない。この土器には多条沈線文が施されており、新潟県黒姫洞穴(入広瀬村教育委員会2004)の縦位櫛掛け状の沈線文土器の年代10,395~9,930calBP(±1σ)ともほぼ同じである。福島県大村新田遺跡(福島県教育委員会1989)の撚糸文土器や栃木県登谷遺跡(登谷遺跡調査団2002)の無文土器(天矢場式)と年代的には併行関係にある(相原2020)。

MGSRM-6の測定値はこれまでにない年代であり、今後さらに類例を集める必要性がある。年代的には岩手県上台I遺跡や山形県日向洞窟遺跡5層土器(長井編2019)とほぼ重複する。また、関東以西の押型文土器で最古とされる大川式系土器の年代が12,030±360calBP・12,010±560calBP(三重県鴻ノ木遺跡)、11,660±290calBP(岐阜県諸家遺跡)(谷口2011)とされており、縄文草創期から押型文土器の成立を考える上でも、極めて重要な測定結果であり、今後の課題としたい。

\*松田遺跡出土土器の所蔵は東北歴史博物館である。写真・図の引用は、宮城県教育委員会1972・1982ab・2010および相原淳一ほか2021、芹沢長介・林謙作1965による。

### 引用参考文献

- 相原淳一 1978「宮城県南部発見の菱形格子目押型文土器」『山麓文化』1,pp.12-17,白石地方文化研究所  
 相原淳一 2016「宮城県における薄手無文土器の再検討」『東北歴史博物館研究紀要』17,pp.7-30  
 相原淳一 2020「日計式土器とその周辺—その年代と併行関係、および層位学的再検討—」『九州縄文時代早期研究ノート』6, pp.21-41,九州縄文時代早期研究会  
 相原淳一・小林謙一・東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室 2021「宮城県における日計式土器とその周辺」『東北歴史博物館研究紀要』22,pp.1-28  
 相原淳一・佐藤信行 2021「縄文早期中葉「大穴式」土器の再検討」『宮城考古学』23,pp.135-152  
 青森県教育委員会 1999『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 263  
 青森県教育委員会 2017『二枚橋(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 581  
 青森県教育委員会 2021『林ノ脇遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 620  
 入広瀬村教育委員会 2004『黒姫洞穴遺跡』入広瀬村報告 1  
 神原雄一郎 2009「盛岡における縄文時代草創期・早期の土器」『盛岡の縄文時代草創期・早期の土器文化資料集』  
 小林謙一 2019『縄紋時代の実年代講座』同成社  
 芹沢長介・林謙作 1965「岩手県蛇王洞洞穴」『石器時代』7,pp.1~16,石器時代文化研究会  
 武田良夫 1969「盛岡市上堤頭・小屋塚遺跡の押型文土器」『考古学ジャーナル』36,pp.8-12,ニューサイエンス社  
 谷口康浩 2011『縄文文化起源論の再構築』同成社  
 長井謙治編 2019『日向洞窟遺跡』日向洞窟遺跡発掘調査団  
 中村孝三郎・小片保 1964『室谷洞窟』長岡市立科学博物館  
 登谷遺跡調査団 2002『登谷遺跡調査報告書』茂木町埋蔵文化財調査報告書 3  
 花巻市博物館 2005『上台I遺跡発掘調査報告書』花巻市博物館調査研究報告書 2  
 林謙作 1965「縄文文化の発展と地域性 東北」『日本の考古学』II,河出書房新社  
 福島県教育委員会 1989『大村新田遺跡』福島県文化財調査報告書 207  
 福島県文化振興財団・加速器分析研究所 2016「まほろん所蔵資料のAMS年代測定結果報告(平成26・27年度分)」『福島県文化財センター白河館研究紀要2015』  
 福島県文化振興財団・加速器分析研究所 2019「まほろん所蔵資料のAMS年代測定結果報告(平成30年度分)」『福島県文化財センター白河館研究紀要2018』  
 三浦武司・加速器分析研究所 2019「まほろん所蔵資料の放射性炭素年代及び炭素・窒素安定同位体比分析の5か年の総括報告」『福島県文化財センター白河館研究紀要2018』  
 洋野町教育委員会 2020『尺沢遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書 8  
 宮城県教育委員会 1972『松田遺跡』『東北自動車道関係遺跡発掘調査概報(白石市・柴田郡村田町地区)』宮城県文化財調査報告書 25  
 宮城県教育委員会 1982a『松田遺跡』『仙南・仙塩・広域水道関係遺跡調査報告書II』宮城県文化財調査報告書 88  
 宮城県教育委員会 1982b『松田遺跡』『東北自動車道関係遺跡発掘調査報告書VII』宮城県文化財調査報告書 92  
 宮城県教育委員会 2010『鍛冶沢遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書 222  
 山形県埋蔵文化財センター 2020『羽黒神社西遺跡』山形県埋蔵文化財調査報告書 239